

2025 年 6 月 23 日

第 217 回 通常国会閉会にあたっての談話

日本退職者連合

事務局長 野田那智子

1. 野党多数の衆院を通過したガソリン減税法案が与党多数の参院で審議未了廃案に

野党 7 党提出の「ガソリン減税法案」は、自民党の衆院・財務金融委員長の解任を経て、6 月 20 日に野党の賛成多数で衆院を通過し、参院本会議で審議入りした。しかし、自民党の参院・財政金融委員長は、野党が求めた 21 日の採決に応じず、委員会の散会を宣言し、22 日の国会閉会に伴って、与党が多数の参院で審議未了・廃案となった。長年の懸案であるガソリン減税を、来る参院選で問わなければならない。

2. 継続扱いとなった選択的夫婦別姓法案と政治改革法案の早期成立を

立憲民主党が委員長ポストを確保した衆院・法務委員会で 28 年ぶりに選択的夫婦別姓制度が審議入りし、闊達な審議が展開されたことは評価できるが、立憲民主党と国民民主党が別々の法案を提出したこともあり、継続審議となったことは極めて遺憾である。

3 月末までに結論を出すことになっていた政治資金改革は、自民党裏金問題の実態が解明されないまま結論が先送りされた。立憲や維新など野党 5 党派が提出した「企業・団体献金禁止」法案に対して、自民は存続前提の「公開強化」法案を提出、公明と国民民主も存続前提の「規制強化」を求め、与野党が期限までに合意できなかったことを厳しく糾弾しなければならない。

3. 参院選を経て政権を交代しよう

衆院が少数与党となった国会においては、与党の強行では予算も法案も通らなくなった。2025 年度予算案は、維新による教育予算の要求を受け入れて衆院を通過後、参院で高額療養費の見直しを撤回する修正の後、再び衆院で確認して成立した。

年金制度改革も、与党と立憲が「基礎年金のマクロ経済スライドを早期終了させる底上げ策」の復活に合意して改正法が成立した。

今国会では与党の強行はなくなったが、個別野党との多数派工作が横行した。本格的な熟議による国会運営を期して、来る参院選を経て、政権交代に向けて前進させよう。

以 上